

2. 教育や文化の発展につくした人々

(1) 三浦 弥平 (みうら やへい) (1891~1965)

三浦弥平は明治24年(1891年)4月、伊達郡白根村字木ノ田(今の梁川町大字白根字木ノ田)の大きな農家に生まれました。そして、白根尋常小学校(今の白根小学校)に入学しました。白根尋常小学校時代は胃腸病で欠席することが多い体の弱い子でした。その後、梁川高等小学校に入学しましたが、行き帰り約14kmの通学はつらく、また2年生の時リュキマスという病気になり、2年遅れで卒業しました。

弥平は体が弱かったのですが、強い意志の持ち主で、いじめられたらやり返すほどでした。刈田中学校(今の宮城県の白石中学校)に進学すると、病気にうちかつために、走って通うようになりました。そして、秋の運動会の1,000m走で優勝したことが陸上競技の道へ進むきっかけとなりました。

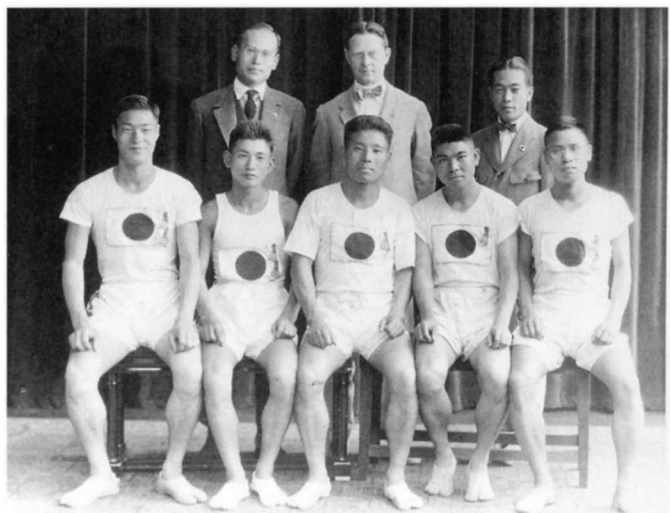
早稲田大学に入ってから競走部に入り、多くの大会に出場しました。

第1回京浜マラソン大会(大正5年・1916年)で7位になり、第2回大会では3位、第3回大会では2位となりました。そして、大正8年の大学専門学校連合競技大会(今のインターカレッジ大会)では2時間52分24秒で優勝し、その年の日本選手権でも2時間39分40秒のタイムで優勝しました。その結果、第7回オリンピック・アントワープ大会のマラソン選手に選ばれました。



晩年の三浦弥平氏

大正9年(1920年)8月、ベルギーのアントワープ市で開かれた第7回オリンピック大会のとき、弥平は28才でした。マラソンには、17カ国42名が参加し、日本からは弥平のほか、金栗、茂木、八島が出場しました。成績は金栗が16位、茂木が20位、八島が21位、弥平は2時間59分37秒で24位でした。



アントワープ大会選手団(前列右より2人目)

大会のあと、ドイツ体育大学へ留学し、4年後の第8回オリンピック・パリ大会に